

大坊大権現

秋葉山道場

大坊大権現

大坊大権現

カコメ株式会社

秋葉山

秋葉山四国今  
午  
行  
事  
表

10:00	開門
10:30	初詣
11:00	参拝
11:30	参拝
12:00	参拝
12:30	参拝
13:00	参拝
13:30	参拝
14:00	参拝
14:30	参拝
15:00	参拝
15:30	参拝
16:00	参拝
16:30	参拝
17:00	参拝
17:30	参拝
18:00	参拝
18:30	参拝
19:00	参拝
19:30	参拝
20:00	参拝
20:30	参拝
21:00	参拝
21:30	参拝
22:00	参拝
22:30	参拝
23:00	参拝
23:30	参拝
00:00	参拝



熱田神宮横：秋葉山2



熱田神宮横



桑名市



桑名市：江戸から382k

クリーニング

Dyoo

7里の渡しへ

## 海蔵寺

(薩摩義士墓所)

薩摩義士とは、当地方に度々水害をもたらした木曾・揖斐・長良三大河川の治水工事による薩摩藩八五名の犠牲者を言います。この工事は、宝暦三年江戸幕府より薩摩藩に命じられ、工事奉行平田鞠負<sup>マカ</sup>他藩士約九五〇名と予算三〇万両で始められ約一年半の工期で完成したが、この間八五名の犠牲者と、多大な工事費用を費やしました。これにより長年荒れ狂った大河川も制御されたのです。

当寺には、工事終了後大幅な予算超過と多数の藩士を失った責任を負い切腹した奉行平田鞠負の墓碑を中心に二四義士の墓があります。

義士によって築かれた油島(岐阜県海津市)の堤防には数千本の松が植えられ、現在も千本松原と呼ばれて偉大な功績跡を残しています。

The Kaizo-ji Temple

(the graveyard of Satsuma Gishi Royal Retainers)

This is a special grave for 24 of the 85 Satsuma Clans' victims'. During the Edo era, they came from what is now Kagoshima Prefecture to do flood

control work on the Kiso, Ibi, and Nagara rivers.

Because they were not able to complete their work in time, spent much money, etc...they committed suicide.

# 海蔵寺1(薩摩義士)



安厝  
治水  
薩摩義士墓所

曹洞宗(平山)  
永平寺  
願持寺  
法性山海蔵寺

海蔵寺、薩摩義士墓所





⊕  
薩摩義士  
墓所  
←

薩摩義士墓所

# 海蔵寺に埋葬された薩摩義士

当寺の隠居寺の安能院は明治四十二年に  
廃寺となり、薩摩義士の墓も改葬された  
下欄●印は安能院より改葬

戒名	氏名	没日	死因
實宗妙真居士	本田甚兵衛	寶曆四年 九月 九日	割腹
功外宗熱居士	江夏次左衛門	六月 五日	●
堅心元固居士	井出上渡右衛門	七月二十八日	●
荷月良圓居士	音方貞淵	四月 十四日	●
以心相傳居士	滝間平八	八月二十九日	●

正面右側

實田法心居士	濱島喜左衛門	寶曆四年 八月二十七日	割腹
實博要心居士	永吉惣兵衛	四月 十四日	●
桂林智昌居士	崎本才右衛門	九月 十六日	●
月庭楚天居士	藤崎伊右衛門	七月 八日	●
本室智空居士	用上島右衛門	十月 十九日	●
高元院殿節孝了操大居士	平田親負	寶曆五年 五月二十五日	●
大運玄道居士	家村源左衛門	寶曆四年 十月二十四日	●
青岳徹雷信士	同右、下男 長助	●	●
功岩良節居士	野村八郎右衛門	八月 十四日	●
本惣要源居士	四本平兵衛	十月 七日	●
悅岩共忻居士	山元八兵衛	十二月二十一日	●

正面

端座玄の居士	鬼塚喜兵衛	寶曆四年 十二月二十八日	割腹
提岩智全居士	姓名不詳	八月二十三日	●
鎖定要開居士	永田伴右衛門	七月二十六日	●
青林宗松居士	前田兵右衛門	八月 十九日	●
達翁宗本居士	恒吉軍太郎	八月 五日	●
秋林宗伸居士	前田新兵衛	八月二十二日	●

正面左側

## 埋葬された薩摩義士



薩摩義士墓所



薩摩義士墓所2

寺町通り

家具・カーテン・洋雑貨

白水屋



8-20

活気溢れる寺町市場





本陣又は脇本陣



山月

山月

本陣又は脇本陣



七里の渡し跡(宮⇒桑名)



七里の渡し跡2

↙ ↘  
東海道

↑ ↘ ↙ ↓  
東海道  
東海道

七里の渡し跡3



七里の渡し跡4



七里の渡し5





七里の渡し跡6

三重県指定史跡

# 東海道五十三次 七里の渡跡



の島屋」が大相馬間（一七八一〜一七八九）に建てられました。

七里の渡の前側には舟着所、高松橋、船本陣、船河屋、大坂本陣が、七里の渡の後側には舟着所、人馬問屋や舟泊本陣があり、東海道を歩き交う人々で賑わい、桑名藩の中心として栄えました。

昭和三十三年（一九五八）、七里の渡跡は三重県指定史跡となりました。昭和三十四年（一九五九）には伊勢湾台風によって、この付近は甚大な被害を受けました。現在では七里の渡跡の前に堤防が築かれたため、七里の渡跡の風景は、江戸時代とは異なる表情を見せています。



## 七里の渡し跡7

文化財を大切に

桑名市・桑名市教育委

桑名宿と宮宿（現名古屋市熱田区）の間は江戸時代の東海道唯一の海路で、その距離が七里（約二八キロ）あることから、七里の渡と呼ばれました。七里の渡は、ちようと伊勢国の東の入口にあたるため、伊勢神宮の「一の鳥居」が天明年間（一七八一〜一七八九）に建てられました。

七里の渡の西側には舟番所、高札場、脇本陣駿河屋、大塚本陣が、七里の渡の南側には舟会所、人馬問屋や丹羽本陣があり、東海道を行き交う人々で賑わい、桑名宿の中心として栄えました。

昭和三三年（一九五八）、七里の渡跡は三重県指定史跡となりました。昭和三四年（一九五九）には伊勢湾台風によって、この付近は甚大な被害を受けました。現在では七里の渡跡の前に堤防が築かれたため、七里の渡跡の風景は、江戸時代とは異なる表情を見せています。

# 七里の渡し跡 8

30



桑名の旧道



# 桑名城城壁

正面の堀川東岸(三之丸地内)の城壁は、桑名城城壁の一部で、川口町揖斐川に面する川口樋門から南大手橋に至る延長約五〇〇メートルが現存し、市の文化財に指定されている。

積石の状態は乱積で、野面はぎ、打込はぎの二方法によっており、また刻印を刻んだ積石も多くみかけられる。片町に面したところには出隅、入隅があった。各所に堀川に向けて狭い通路が設けられているのは、明治以後、廢城になってから便宜上付けられたものであろう。戦前までは南大手橋から京橋裏、それに三之丸立教小学校横まで堀川は続いていたが、終戦直後、またたく間に埋め立てられた。この城壁には老松が並木を作り、枝は堀へ垂れ

桑名城城壁





桑名城城壁2



桑名城城壁3



福島屋

旧道2

史跡 龜山城跡

跡 15

龜山城址





龜山城址2





龍山城址3



# 伊勢亀山城

伊勢亀山城は、文永二年（一二六五）若山（亀山市若山町）に閑実忠が最初に築城し、元龜四年（一五七三）織田信長により閑盛信が追放されるまで、閑氏十六代の居城であった。ただし、閑氏時代のうちに現在の位置に遷されたことされ、発掘調査においても戦国時代末頃の空堀が確認されている。

天正十八年（一五九〇）岡本宗憲が入城後、新たに築城したとされ、この城については、『九々五集』に本丸・二之丸・三之丸からなり、天守も建てられたと記される。

また、三宅氏が城主の時、丹波亀山城の天守を解体するよう命じられた堀尾忠晴が間違えて伊勢亀山城の天守を取り壊したと伝えられるが真偽のほどは定かではない。

寛永十三年（一六三六）本多俊次が城主になると亀山城の大改修に着手し、東西七〇〇、南北五〇〇に及ぶ縄張りが確定する。城の外周は堀が廻り、一部は谷をせき止めて水堀とした。城内には本丸、二之丸、東三之丸、西之丸、西出丸の曲輪があり、本丸には將軍家旅館として整備された本丸御殿、二之丸には城主居館と藩庁を兼ねた二之丸御殿が設けられた。

亀山城の別名については唯一の典故である『九々五集』に堀垣を意味する「粉塚城」と記されている。

城主は八家がめまぐるしく入れ替わったが、延享元年（一七四四）石川経慶が城主となると、以後は石川家十一代で明治維新を迎えることとなる。

明治六年の廢城令によりほとんどの建造物は取り壊され、現在は多門櫓と石垣、土塁、堀の一部が残されているに過ぎない。多門櫓は、県下で原位置のまま遺存する唯一の城郭建築として昭和二十八年に三重県指定文化財に指定された。また、石坂門は近年の発掘調査により石垣基礎の一部が発見され歴史博物館前に移設されており、わずかではあるが往時の姿を鑑みることができる。

伊勢亀山城平面図



平成十六年九月建之

# 伊勢龜山城平面図



亀山城址4



龜山城址5



A photograph showing a traditional Japanese stone wall made of dark, irregularly shaped stones. The wall is built on a hillside and leads up to a white building with a dark, tiled roof. The roof has a decorative finial and a circular emblem. The scene is partially obscured by dense green foliage on the left side. The sky is overcast.

亀山城址6

# 亀山城址7





亀山城  
址8



A scenic view of a river valley. A red wooden bridge with a railing crosses a river in the lower right. The river flows through a lush green forest. In the background, a hillside is covered in dense green trees. A small building is visible on the left side of the hill. The overall scene is a peaceful natural landscape.

亀山城址9





東海道

龜山宿

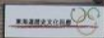
龜山宿標識

東海道

(ここは亀山宿です)

庄野宿 ↔ 関宿

(約6 Km)



亀山宿標識2